# サンロード末広
## （桐生市末広町商店街振興組合）

群馬県桐生市

インバウンド　地域協働　新陳代謝　生産性向上

**ポイント**

**「安全で安心なコミュニティの場」を目指して防犯・防災の取組を強化。空き店舗の減少など商店街としての好循環が生まれる。**

### 基本データ

| | |
|---|---|
| 所在地 | 群馬県桐生市末広町 |
| 人口 | 約 11 万人（桐生市） |
| 電話/FAX | 0277-47-3754 / 0277-47-3754 |
| 会員数 | 57 名 |
| 店舗数 | 66 店舗（小売業 25 店、飲食業 13 店、サービス業 14 店、金融業 1 店、医療サービス業 3 店、その他 10 店） |
| 商店街の類型 | エリア価値向上型 |
| 主な客層 | 家族連れ（親子）、学生・若者 /50 歳代、10 歳代以下 |

### 商店街概要

昭和 46 年に設立された桐生市末広町商店街は、JR 両毛線桐生駅前通りに位置し、桐生市中心商店街の一角を担っている。昭和 48 年から、市の都市計画事業による街路拡幅事業に併行して「商店街近代化造成事業」に取り組み、アーケード設置や来街者用駐車場の整備など、現在に続く街並み形成の基盤づくりを成した。共同事業面では、駐車場の管理・運営による安定した収益確保のもと、各種イベントを積極的に展開。また、「安全・安心のまちづくり」の理念を実現すべく、街灯の省エネ化や防犯カメラの設置のほか、防災・防犯関連のイベント開催など、ハード・ソフトの両面から活性化に取り組んでいる。

## 取組の背景

### ニーズは「安全で安心なコミュニティの場」

シャッター街と化した商店街の衰退に歯止めをかけるための手段の一つとしてイベントがあるが、商店街関係者のみで企画したイベントは、開催当日こそ賑わうものの、終了後はもとの閑散とした姿に戻るということの繰り返しであった。

当商店街では、この状況を打開すべく、平成 22 年に懸賞付き公募企画「ガンバレ！末広！みんなの提言」を実施。商店街再生に向けた意見を広く募ったところ、幅広い年齢層から多様な意見が寄せられた。特に、「楽しく、安心・安全で開放的な商店街にする必要がある」との提言が、現在に至る商店街の在り方に大きなヒントを与えることとなった。

また、平成 26 年には、国の補助を活用し、商店街に対するニーズ調査を実施。住民の視点から地域商業のこれからを探ったところ、利用者のニーズは「便利に買い物できる場」よりも地域住民が気軽に交流できる「安全で安心なコミュニティの場」のほうが大きいことが判明した。

## 取組の内容

### 防犯・防災・復興支援などの役割を担う

この調査結果を踏まえ、商店街としては、積極的に地域住民の人間関係をサポートできる場を提供したいとの思いを強く抱いた。そのためには、街の安全・安心が何よりも重要であり、これを組合理念として、その実現に向けた様々な取組を進めていく必要があると考えた。

まずは、商店街が「安全·安心なコミュニティの場」であるとのイメージを普及させるべく、従来より行っていた商店街パトロールの規模を拡大する形でイベントを実施。末広町通りを歩行者天国として開催した「G-FIVE ロード　防犯防災イベント」では、消防・警察・行政との連携のもと、消防車やパトカーへの体験乗車を通じて防犯・防災の重要性を学ぶことができるなど、親子で楽しめるイベントとなっている。

G-FIVE ロード
防犯防災イベントチラシ

G-FIVE ロード
防犯防災イベント

また、アーケードの電灯のうち、非会員店舗や空き店舗部分の電気料金を組合で負担し、毎日午後 11 時まで点灯させることで、明るく安心して歩ける

商店街の実現に努めている。この取組の結果、地域内の学校では塾や部活の帰り道には末広町通りの街路を利用するよう推奨されるまでになっている。

他にも、地元高校生や地域ボランティアサークルと連携した復興支援イベント「絆フェア」、「清掃活動で復興支援」では、陸前高田の特産品を利用したコラボレーション食品などを販売する場所の提供、絆フェアで使用できる補助券の提供などを行っている。

午後 11 時まで点灯しているアーケード

清掃活動で復興支援

また、平成 23 年には東日本大震災がきっかけとなって組合事務所を商店街中心部へ移転。平常時は地域住民の交流場所として開放しているが、非常時には救護施設として利用できるようにと考え、飲料水・缶パンの備蓄や非常灯の設置を進めてきた。そのほか、組合事務所前に設置した自動販売機の売上の一部を犯罪被害者支援センターに寄付するなど、地域住民が望んでいる安全・安心を基本とした街づくりの実現に向けて様々な試みを行っている。

## 取組の成果

### 防犯・防災を軸にしながら飽きられない工夫

商店街で実施するイベントは、一過性のものではなく継続開催できることを念頭に置いており、常に地域住民側の目線で少しづつ趣向を変えながら企画・立案している。一例として、「G-FIVE ロード　防犯防災イベント」については、中心テーマである防犯・防災企画は維持しつつも、動物との触れ合いやオリンピックをモチーフとした企画など関連イベントに工夫を凝らし、来場者に飽きられないよう心掛けている。その結果、来場者数は年々増加傾向にあり、平成 29 年の第 11 回開催では 2 万人の来場を得た。

さらに、イベントを通じた住民との交流から貴重な意見が得られることもある。平成 20 年には参加者から寄せられた「空き店舗のシャッターに落書きが多くて不快」との指摘を受けて落書きの消去、不要物撤去、路上清掃を実施。街区の清潔感を取り戻すことで、当商店街の治安の良さを一層高めることにつなげた。

また、このような取組の結果空き店舗数も徐々に減少しつつあるなど、好循環が生まれている。

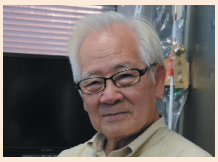
## 実施体制

組合執行部においては、女性役員を積極的に登用し、女性ならではの感性を生かした企画を導入することでイベントに新たな風を吹かせている。

また、市や商工会議所、警察や消防との密接な連携体制はもちろん、イベントの開催時には、隣接する商店街関係者のほか、地元大学生や高校生などからも積極的な協力が得られており、商店街事業への参画を通じて商店街をより身近に感じてもらえる雰囲気を醸成している。

財源確保の面では、空き店舗への新規出店による組合員の拡大を端緒に、来街者数の増加による駐車場利用率が向上しており、駐車場の管理・運営業務を通じた安定収入が見込める状況にある。その他、国の補助を活用して設置した映像コンテンツカフェの運営も自主財源の確保に貢献している。

## キーパーソンからのコメント


桐生市末広町
商店街振興組合
理事長　今川 守

桐生市末広町
商店街振興組合
専務理事　中村 昌也

### イベントを通じて仲間意識を

以前のイベントは商店街店主を中心に運営していましたが、経済情勢の悪化に伴い参加店舗が減り、規模の縮小で対応したものの開催が危ぶまれる状況にまで陥ってしまいました。そこで、一商店街だけでなく行政や警察等々とタッグを組んで開催したところ、次第に参加店舗の輪が広がっていきました。

現在ではボランティアグループやボーイスカウト等も加わり、街全体でイベントを盛り上げようとする仲間意識が生まれています。

### 安心安全の商店街へ

防犯カメラの設置など、安心安全のまちづくりを行ってきた中で得た市民からの提言「楽しく、安心・安全で開放的な商店街」は商店街のコンセプトであり、今後は更に強化していきます。

また、安心・安全＝子どもへの取組が重要と考え、新 1 年生･新園児が歩くレッドカーペットや真夏の雪遊びなど、四季折々のイベントを通じて、将来桐生のまちを担う子どもとその家族が安心して歩ける安全で楽しい商店街にしていきたいと思っています。